

優れたQOLサポーターになるための3ポリシー（診療放射線学科）

優れたQOLサポーターの資質・能力 S T E P S		ディプロマ・ポリシー 卒業認定方針	カリキュラム・ポリシー 教育課程編成方針	アドミッション・ポリシー 入学者受け入れ方針
S	Science & Art 科学的知識と技術を 活用する力	診療放射線技師に必要とされる科学的知識と技術を習得し、幅広い教養と見識から臨床現場で活用できる。	新しい知識と技術を活用する力を修得し、豊かな人間性を備え、時代の求める診療放射線技師として活躍できる人材を育成する。診療放射線技師として必要な臨床医学、放射線科学を学ぶ専門基礎科目群、画像解剖学、画像診断学、診療画像検査技術学などの専門専攻科目群を配置し、撮影から各症例の診断に適した画像構築について学ぶ。成果は国家試験合格率などで評価する。	高等学校卒業相当の英語・国語・数学・物理など、入学選考試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。
T	Teamwork & Leadership チームワークと リーダーシップ	診療放射線技師としての高い技術と多職種連携の技能を有し、アジア地域の一員として、対象者および他の職種と良好なコミュニケーションを図りながら職務を遂行できる。	関連する専門職が連携・協働し、チーム医療・チームアプローチを通して、医療人としての基礎知識や技術を高める臨床実習や診療放射線学概論、診療放射線学特論の中で、コミュニケーション力やリーダーシップのあり方を習得し、さらに救急チーム医療論、連携基礎ゼミを配置する。成果は臨床実習などで評価する。	相手の話をよく聞き、自分の考えを相手にわかりやすく伝えながら、他者と協力して物事を行おうとする態度を有する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	健全な人間性と倫理観をもち、診療放射線技術の専門知識と技術に基づいて、医療の現場で対象者を支援できる。	幅広い教養を身につけ、対象者に共感し、人間味のある高度医療人として対象者を支援する力を修得するため、救急医学、公衆衛生学などの専門基礎科目群、診療画像検査技術、核医学検査技術学、放射線治療技術学、医療画像情報学、臨床実習などの専門専攻科目群を配置する。成果は臨床実習などで評価する。	対話や関わりを通して、他者の意見や思いを把握し、それを共感的に理解しようとする態度を有する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	診療放射線技師として必要な専門知識と技術などの論理的思考力を有し、それらを総合的に活用しながら正確な判断のもと問題解決ができる。	論理的に思考し議論する能力と、問題を解釈し解決する能力を修得するため、放射線安全管理学、医療安全管理学などの専門専攻科目群を配置し、PBL（問題解決型授業）を取り入れた講義を行う。また、論理的思考による解決への道筋を見出す力を修得するために卒業研究を配置する。成果は卒業研究などで評価する。	ある事象に対して妥当な判断をくだすために、他者の意見を取り入れながら、多面的に考える能力を有する。
S	Self-realization 自己実現意欲	最新の医療・診療放射線技術の進歩に広く関心をもち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。	地域医療や救急医療における診療放射線技師の役割を理解し、優れたQOLサポーターとして、自主的・継続的に自己研鑽に努める心構えを身につけるため、専門専攻科目群として画像診断学、救急撮影技術学、放射性医薬品学、放射線腫瘍学、医療情報システム学を配置する。成果は臨床実習・卒業研究などで評価する。	保健・医療・福祉領域に強い関心があり、診療放射線技師として地域医療に貢献したいという意欲を有する。
備考		学則の第1条参照	カリキュラムの構成についてはカリキュラム・マップ参照	入試の詳細は学生募集要項参照

注：建学の精神「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義している。